

ひとりごと

「新たなことへのChallenge」

唐突だが、私には小学校4年生の息子がいる。その息子は少年野球のチームに2年生のころから在籍をしている。

あるとき息子が、私に少年野球のコーチをしてほしいと言ってきた。ちなみに私は野球経験がない。それでも少年野球のコーチを引き受けた。私自身、新しいことにChallengeしてみようという気持ちもあったからだ。

私の息子の性格はやや内向的で、自分から何かを発信することは滅多にない。そんな息子が昨年初めて4年生チームの副キャプテンに任命された。最初の挨拶では、案の定、言葉に詰まり、うまく話すことができなかった。しかし、そんな息子にヘッドコーチは「考えていること、感じていることをチームの為に発信できるように挑戦してほしい。」と声をかけてくれた。

その日から、徐々にではあるが自分の考えていることを発信するようになってきた。息子なりに頑張っているようである。練習から帰ってきて、「今日はしっかりと声が出せた。」と胸を張って妻に話す姿も増えてきた。

息子の前向きな姿勢を間近で見ることができて、少年野球のコーチにChallengeしてみて良かったと思えた。

そんな私は昨年の4月から文部科学省に研修生として勤務している。それまでは公立小学校の教諭として15年間勤務していた。教育委員会等の行政職を経験することなく、いきなり文部科学省へ勤めることには正直かなり迷った。しかし、息子があまり得意でないことにもChallengeしている姿や妻からの後押しもあり、研修生として勤めることを決めた。

あまりの教育現場との違いに何をしていたらいいかわからず、正直しんどくなる時期もあった。そんな時に思い浮かんだのは、必死に副キャプテンとして頑張っていた息子の姿である。妻からも試合の映像や様子が送られてくる。親馬鹿ではないが本当に良く頑張っていると思えた。そんな息子の姿に私も頑張らなければならないと元気をもらうことができた。もちろん、私が所属しているチームのみなさんにも支えられてここまでやってこられているのは、当然のことである。

改めて、家族やたくさんの方々を支えられていることを実感することができた。それだけでも新しいことへChallengeしたことに意義があったように思う。もちろん、私も家族の支えとなったり、チームに貢献したりできるように頑張らなければならない。

「新たなことへのChallenge」が良かったと思えるように、残りの時間を大切に過ごしていきたいと思う。

(N.D)